

2020年8月28日

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会 会長 中西宏明 様
環境省近畿地方環境事務所 所長 櫻井洋一 様
大阪市港湾局 局長 田中利光 様

関西自然保護機構 会長 石井 実
連絡先：大阪市東住吉区長居公園 1-23
大阪自然史センター 気付
TEL: 06-6697-6262



夢洲におけるヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境の保全を求める要望書

関西自然保護機構では、2020年4月28日に大阪市住之江区の夢洲のヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境について、別紙のような申し入れを公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会様宛にさせていただいたところです（別紙2・1・2）。

その申し入れでは、夢洲は絶滅危惧II類のコアジサシの繁殖地、カモ類の越冬地やシギ・チドリ類の中継地として重要であることを指摘し、「日本の重要湿地500」である隣接する大阪南港野鳥園同様に重要な環境であること、大阪府のレッドリスト及び、大阪市の生物多様性地域戦略で、夢洲を生物多様性の保全上特に重要な場所としていることを指摘させていただきました。当該の夢洲南東部の規模の大きなヨシ群落には、ウラギク（環境省・大阪府RDBで準絶滅危惧）、チュウヒ（環境省RDBで絶滅危惧IB類）、ツクシガモ（環境省レッドリスト2019で絶滅危惧II類）の生息地・越冬地になっていることを指摘し、その保全を要望させていただきました。

今回、当機構の助成する調査の一環として行われた2020年7月の植物調査において、この水域で大阪府では絶滅したとされるカワツルモが確認されました。カワツルモは汽水域に生育する水草ですが、全国的にも生育地が減少しています。隣接する和歌山県・兵庫県でも現在生育が確認できる場所がほとんどなく、最も絶滅の危険性が高い種として評価されています（和歌山県レッドデータブックで絶滅危惧IA類、兵庫県レッドデータブックでAランク（絶滅危惧IA類に相当））。生育に適した環境が限定されることに加え、沿岸部の開発により全国的にも生育地が減少していることから、夢洲で発見された生育地は極めて重要な場所であると考えられます。

当該地域は、現在かろうじて埋め立てを免れていますが、こうした植物は移植による維持は極めて難しく、万博やIR開発も含めた夢洲開発の理念でもあるSDGsの配慮の一環として、また、「都市と自然環境の共存」の象徴としての保全を要望します。

具体的には

- ・ 工事期間を通じた、ヨシ群落及び隣接する水辺環境の保全
- ・ 工事期間終了後も残置の開放水域の一部としての保全

が必要です。

夢洲は人工の地盤ではありますが、そこに再生したヨシ原及び動植物は自然の営力によって再生した大阪湾のポテンシャルによるものです。関係各位におかれましては、夢洲におけるヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境の重要性を認識していただき、保全のための努力を要望します。

カワツルモについて

カワツルモ *Ruppia maritima* L. (ヒルムシロ科 カワツルモ属)



全国的に生育地の減少している水草。国内では汽水域を中心に分布している。夢洲の水域は雨水により形成されたものだが、土壌及び波浪による乗り越えでの塩分が供給されたことにより汽水的な環境が生じている。

大阪では同様に人工地盤の汽水環境であった南港で1996年に一時的に発生した事例が最後の発見。

大阪府南部では1960年代に採集されているが、その後確認されていない。

周辺でも兵庫県、和歌山県に生育地があるが、和歌山県で絶滅危惧 IA 類、兵庫県 A ランク（絶滅危惧 IA 類に相当）に指定されている。

水鳥による散布が考えられ、夢洲への移入は人為的なものは考えにくい。ヨシ原周辺の水辺にはツツイトモ、ホザキノフサモなども生息している。また、他の水域ではリュウノヒゲモ、ササバモなども見いだされている。水鳥の飛来の多さと関係していると考えられる。

公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会
会長 中西 宏明 様

関西自然保護機構 会長 石井 実
連絡先：大阪市東住吉区長居公園 1-23
大阪自然史センター 気付
TEL: 06-6697-6262

夢洲におけるヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境の保全を求める要望書

2020年4月現在、大阪市住之江区にある夢洲は、広大な裸地や草地、水たまりが広がっており、環境省レッドリスト 2019 で絶滅危惧 II 類のコアジサシの繁殖が記録されているほか、大阪湾最大のカモ類の越冬地の一つであり、渡りの季節には希少種を含む多くのシギ・チドリ類の中継地としても重要です。隣接する大阪南港野鳥園は、渡りのシギ・チドリ類の種数・個体数が多いことから「日本の重要湿地 500」の一つに選定されていますが、夢洲の水域やそれに隣接するヨシ群落は、それよりも規模が大きく、重要性も高いと考えられます。こうした理由から、大阪府のレッドリスト及び、大阪市の生物多様性地域戦略では、夢洲を生物多様性の保全上特に重要な場所（Aランク：広域的な観点で見ても特に重要な場所）として取り上げています。

特に、夢洲南東部には、約1haの規模の大きなヨシ群落、及び隣接する浅い水域がまともに残されています。このヨシ群落は、夢洲に浅い水域が成立した後に、風や鳥によって種子が運ばれ再生したものと考えられます。このヨシ群落には、ウラギク（環境省レッドリスト 2019、及び大阪府のレッドデータブックで準絶滅危惧）が生育しており、冬期にはチュウヒ（環境省レッドリスト 2019 で絶滅危惧 IB 類）も見られます。ヨシ群落の周辺水域は、瀬戸内海東部で最大のツクシガモ（環境省レッドリスト 2019 で絶滅危惧 II 類）の越冬地になっています。大規模なヨシ群落が少なくなっている大阪府や大阪湾岸の現状を考えると、夢洲に残るヨシ群落及びそれに隣接する水域を保全することは、大阪府周辺の生物多様性保全の観点から非常に重要です。また、水域にヨシ群落が隣接して広がっている風景は、かつて大阪低地部で広く見られた風景であり、夢洲に大阪の原風景が残ることは、都市と自然の共存という観点からも特筆できるものになるでしょう。

しかし、夢洲が2025年の万博会場となることが決まって以降、急ピッチでこうした湿地・水域の埋め立てが進行しています。現在まともな規模でヨシ群落が残されている場所は、夢洲南東部の一部（別紙参照）のみとなっていますが、この群落の周辺ではすでに埋め立て工事が始まりつつあります。現在残されている、このヨシ群落とそれに隣接する水域を継続的に維持していることは、上記で述べたとおり、生物多様性保全の観点からは重要となります。

関係各位におかれましては、夢洲におけるヨシ群落及びそれに隣接する水辺環境の重要性を認識していただき、本群落の残置・保存に向けた対策をして頂けるよう要望します。なお、関西自然保護機構は、近畿地方における広い意味での自然保護の諸問題に対するアドバイザー・ボディ（助言勧告機関）として、必要な協働に参画する意志があることをお伝えしておきます。

別紙 夢洲で 2020 年現在まとまって残されているヨシ群落の範囲（赤枠内）

